

研究所ニュース No.57

りべらしおん



「りべらしおん」は、フランス語で「解放」という意味です。

発行：公益社団法人 福岡県人権研究所

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50 福岡県吉塚合同庁舎内 TEL 092-645-0388 FAX 092-645-0387

Mail: info@f-jinken.com URL: http://www.f-jinken.com/

福岡県人権研究所は

四月一日から「公益社団法人」に移行しました

前年度事業を振り返って

所長 松尾 祐作



『全九州水平社創立九〇周年記念誌』の表紙(案)

(五月刊行予定・二頁下段参照)

二〇一二年度は、所長松尾、運営委員長加藤、事務長谷口の新体制でスタートした。課題の第一は事務局の連携・連絡を密にして事業の円滑な進展を図る事であった。それぞれ出勤日が異なる事もあり、意思疎通を図り、事業に関する共通理解を得るために原則毎週事務局会議を開催してきた。ちなみに前年度は四〇回近くの事務局会議を開いてきたが、研究所の現状、役割、課題等について一定の共通認識を得る事ができたのではないかと思う。

前年度の大きな課題の一つは懸案の公益社団法人化であった。公益社団法人に認定してもらうための事業内容の整理や会計処理等に関して、谷口事務長と山口会計担当を中心に取り組んできた。県の担当部局との頻繁な折衝や書類整理、認定内示後は登記に関する法務局との折衝等、意欲的に取り組んでいたが、なんとか新年度の法人化にこぎ着ける事ができた。

事業内容に関しては、部落史の研究・啓発の強化が指摘されてきたが、部落史連続講座を開催できた事は成果の一つとしてあげることができよう。総会の記念講演を含めて四つの講演を開き、その内三つの講演と石瀧氏によるQ&Aを加えてブックレットにまとめる事ができた。研究所の重要な使命の一つとして、今後とも部落史の研究・啓発に力を尽くしていきたいものである。

IT時代における広報のあり方としてホームページの役割が大きくなってきているが、研究所ニュース「リベラしおん」五六号でもお知らせしたように、研究所のHPを充実・強化した。出版書籍、研究所の行事等を載せ、広くアクセスできるようにして、今後とも研究所の存在をアピールしていきたい。

研究所の大きな課題として、財政問題がある。研究所の財政は県と政令市の補助に大きく依存しているが、三年間で一五%削減された。研究所としては、事務局員の勤務日数を削減して、アルバイトで補う等経費削減に取り組んできたが、事業内容や事務量から自ずから限界がある。今後は出版物の販売に一層取り組む事や、広く寄付を募る事などを考える必要がある。また、研究所の運営に会員のボランティア参加が広く求められる事も考えられる。会員のみなさんのご理解とご協力をお願いしたい。

幸い前年度は四つの自治体からの受託調査

水平社博物館（奈良県）の紹介

昨年は全国水平社創立九〇周年、今年は今九州水平社創立九〇周年という節目の年です。今号では、駒井忠之さんに、奈良県の水平社博物館を紹介していただきます。

■人の世に熱あれ、人間に光あれ

一九二二年三月三日、人間の尊厳と平等を高らかにうたいあげて創立された全国水平社。その結成の中心となったのは、奈良県御所市柏原の青年たちでした。一九九八年五月一日、水平社運動に人生を捧げ、差別と闘い続けてきた先人の遺志を伝えることを目的に、水平社博物館が開館しました。来館者は二十七万人を超え、柏原は人権のふるさととして親しまれています。



水平社博物館外観

■迫力の展示

展示の一番人気は、全国水平社の創立大会を映像と模型で再現したファンタビュシアターです。感極まり、参加したすべての人びとが涙

などがあり、効果的な会計運営を行うことができた(一つは本年度まで継続)。しかし、受託調査は毎年あるとは限らず不安定である。自治体からの受託調査そのものも、限られた人数によって対応しているのが現状である。財政問題としてだけではなく、受託事業への対応のあり方自体も検討の必要がある。公益社団法人になることで、会計処理や事業運営などにどのような変化が起こるか不透明な部分が多々ある。試行錯誤を重ねながらの一年になります。会員の皆さんにできるだけ迷惑をおかけしないよう、一生懸命取り組んでいくつもりです。会員の皆さんの一層のご協力をよろしくお願いする次第です。

機関誌『リベラシオン』

執筆者・読者の交流会を開催

四月七日(日)、ココロンセンター研修室(福岡市)にて、「リベラシオン(一四三〜一四九号)執筆者・読者の交流会」を開催しました。「ちよつとい話」執筆者の林内隆二さんからは「ナシヨナリズム」が加熱する中での国際交流」について、読者の加来康宣さんからは「原発、沖縄基地、水俣病等の社会問題」について、森山浩一理事長からは「反戦・平和」についての意見・問題提起が出されました。今後の誌面作りに反映していきたいと思えます。

に打ち震えた、その熱気を、その興奮を、その感動を体験してください。

シアターとならび、創立者たちが水平社運動に込めた思いを語るビデオコーナーは、感銘を受けたとの感想を多数いただいたお趣みのコーナーです。



ファンタビュシアター
水平社の創立大会が体験できる

■楽しく遊びながら学習

中村玉緒さんや池乃めだかさんのメッセージが聞けたり「I have a dream」の演説で有名なアメリカ公民権運動の偉大な指導者・キング牧師が登場したり、エピソードは子どもたちも楽しみながら人権学習ができるコーナーです。

すべての人が幸せに生きるための権利「人権」について、ご家族で話し合ってみませんか。



エピソード
楽しみながら人権を学ぼう

『全九州水平社創立九〇周年記念誌』を五月に刊行します。本研究所の「松本・井元研究会」が中心となり、記念誌の編集作業を進めています。(本紙一頁に表紙写真を掲載)

【全九州水平社について】九州で最初に組織された水平社。一九二二(大正一一)年五月一日、メーデーの日福岡市外東公園博多座で創立。参加者は「福岡県をはじめ九州より二千人に達し、場内活気横溢した」という。結集の力と組織を中心にしたのは福岡。「全九州」を名乗ったのは、文字通り九州全域への拡大意欲とその核たらしめた使命感に基づくのであろう。創立当時、松本治一郎は運動の発展を恐れる警察により投獄されていたため、獄中の全九州水平社委員長就任だった。機関誌『水平月報』事務所は松本委員長宅。

創立当時は福岡を中心に差別糾弾闘争を展開。その過程で近藤光・田中松月・藤岡正右衛門らのオルグ活動により、佐賀県水平社(二三年六月)、福岡県水平社(同年七月)、熊本県水平社(同年七月)、大分県水平社(二四年三月)を設立、福岡連隊事件の公判闘争の渦中長崎県水平社を組織(二八年六月)、九州での一定の定着を見た。

また、九州が全国水平社総体の中に占める位置は大きく、徳川家達辞爵勸告、福岡連隊、久留米連隊、熊本連隊などの軍隊内差別、水平社解消意見等水平運動の節目をなす重要な提起を行い、かつ全国水平社の構成員率でも四〇〜五〇%強を占めた。農民運動、労働運動にも積極的に参加した。

(『全九州水平社創立九〇周年記念誌』より引用)

■九〇周年記念碑を建立

全国水平社創立九〇周年、大和同志会創立百周年を迎えた昨年は、特別展を開催するとともに、水平社博物館前の人権のふるさと公園に記念のモニュメント「いのち 燦燦の燈(さんざんのひ)」を建立しました。また、人権のふるさと公園には芝桜や八重桜、楓などが植樹され、季節の彩を楽しんでいただけますので、全九州水平社創立九〇周年のこの機会に、ぜひご来館ください。



いのち 燦燦の燈

■来館者の声

☆差別について良くわかる博物館でした。中学校で差別についてたくさん勉強したので、その時の先生にここを教えてあげたいと思いました。

☆楽しく学べるのと、真剣に学べるところがあってよかったです。ファンタビュシアターはとくによかったです。

■水平社博物館の特別展・企画展のご案内
①第一六回特別展「部落の歴史をまなぶー差別ってなんだろう?ー」

◇二〇一三年五月一日～八月三十一日
部落の人たちが営んできた生活や、さまざまな被差別民の姿を紹介し、部落の歴史を小・中学生にもわかりやすく展示します。
②御所の人権スポーツスケッチ展(仮題)
◇二〇一三年九月二十五日～十一月十日
③第一四回企画展「アートで人権」(仮題)
◇二〇一三年十一月十日～二〇一四年三月二三日

■来館のご案内

休館日/毎週月曜日・毎月第四金曜日
(祝休日の場合は開館、翌日休館)
年末年始
開館時間/午前十時～午後五時
(入館は四時三〇分まで)
入館料/大人五〇〇円、中学生三〇〇円
小学生二〇〇円(二〇名以上団割)
障害をもつ方は無料
交通/近鉄榎原神宮前から御所行バスで一五分、近鉄御所駅から八本行きバスで十分、郡界橋下車
JR和歌山線掖上駅から一・二Km
住所/奈良県御所市柏原二二五一一
(電話)〇七四五―六二一五五八八
URL <http://www.1.mahoroba.ne.jp/~suihei>
(水平社博物館 駒井忠之)

北九州の戦争遺跡
「軍艦防波堤を語る会」に行ってきました

四月七日(日)、研究所機関誌『リベラシオン』一三九号(二〇一〇年九月号)の「戦争記憶を守る冒険」で紹介した「軍艦防波堤」について「語る会」が行われました。主催は軍艦防波堤連絡会。会場の北九州市若松区の旧古河鋳業若松ビル二階には約五〇人の参加者が集いました。

第二次大戦後の一九四八年、若松区外れの岸壁に「冬月」「涼月」「柳」という三隻の軍艦が防波堤代わりに沈められ、地元住民から軍艦防波堤と呼ばれていました。現在岸壁に形をとどめているのは「柳」(全長八五・八五m/幅七・七四m)(写真下)のみで、「冬月」「涼月」は「柳」側面のコンクリート下に埋められており、岸壁には多くのつり人が訪れています。



三隻について記した看板

と、東京から来られた澤さんが、祖父にあたる「涼月」の艦長、平山敏夫さんについて話されました。

会場からは「子どもの頃は岸壁に三隻の船があり、船上から海に飛び込んで遊んだ」という地元の方や、「四〇年ほど前に冬月と涼月の船上部分を解体して船体をコンクリートに埋める工事に携わった」などの体験が語られていました。



後方から見た「柳」



前方から見た「柳」

松尾さんは「今後も保存活動を広めて歴史の風化を防ぎたい。出来れば埋められた二隻も再び見えるようにして、市民が訪れる公園にしたい。市に働きかけるのでどうか協力して欲しい」と参加者に訴えかけていました。「軍艦防波堤」の史実については今秋研究所から絵本にして刊行する予定です。(事務局)

会員の声

堅粕隣保館開設五〇周年に思う

〜絆・かいほう・和を求めて〜

原口孝博

三月二四日満開の桜の下、私が勤務する堅粕人権のまちづくり館(堅粕隣保館)で開設五〇周年記念式典・祝賀会が開かれました。地域住民、関係者一三〇名が出席し、大変賑やかながら印象深い一日でした。その折に感じたことを記します。

一九六二(昭和三七)年堅粕隣保館の開設から四〇年、人権のまちづくり館へ名称変更後一〇年と、長い歳月が経ちました。「人間五〇年 下天のうちを比ぶれば 夢幻のごとくなり」、織田信長・桶狭間出陣舞の一節ですが、五〇年は昔なら一人の人間の一生の時間に相当します。この日、地域活動功労者八名の方が福岡市長感謝状を授与されましたが、内五名は七〇歳以上。若き頃より部落差別の根絶を願い、問題解決に取り組ん



で来られた方々であり、その表情の中に刻まれた年輪の深さを想いました。幼少時より堅粕で生まれ育ち、当地が人生の起点となった私もまたいろんな思いが胸を去来します。

隣保館開設より遙か昔、堅粕地区は、実は華々しい部落解放運動の歴史を持っていました。明治六年筑前竹槍一揆で村を焼き打ちされるも、同一四年自由民権思想の壮大な自立計画「復権同盟」結成への活動を展開。大正期は水平社運動へ決起(全水青年同盟松園支部)、「福岡二四連隊差別糾弾闘争」での理不尽な弾圧(青年五人が投獄死)以後、昭和期冬の時代を迎え、荊冠旗を焼く苦渋を強いられた戦争期の敗北。

以後一九五〇年代まで、戦後の荒廃や差別・貧困を前に、住民はひっそりと暮らし続けました。しかし、解放運動の炎を再点火させたのはやはり地域の青年達です。六〇年代後半から彼らは、古者や先人達との交流・触発によつて悲喜併せ持つ「前史」を掘り起し、継承し、次代の課題へと向かいました。同和対策・同和教育もない時代に、福岡セツルメントの学生達(一九五五年頃から地域に入る)との共同闘争を図り、差別・被差別の垣根を産む部落差別の本質解明や解体を求めて先進的活動を展開しました。解放理論・実践の未熟さから分裂・崩壊に至るけれども、「自己・他者の対立・矛盾の根源は何か、個人や共同性・社会の在り方を含め、人間や差別を今一

度問い直す」という未解明の課題に挑み、その思想的な志は今なお様々な形で息づいています。

この地は七〇年～八〇年代に、住民の一部が移住した堅粕団地を含め、狭山闘争や大規模な住宅改良事業、差別教育糾弾・同和教育実践という大きなうねりの高揚期を生みました。「前史」に続き、先人達の遺産を継承する歴史を再び築いたといえます。

当日メインテーマに掲げた「絆・かいほう・和」の三つの言葉は、解放令以後一四〇年に涉るこの地の人々の、人間的な熱い思いや願いが込められていると私は思います。即ち、「どんな境涯にあれ、誰もが互いに助け合い、豊かに人間らしく暮らしてゆける社会を創りたい」というメッセージです。

最近よく聞く「絆(つながり)」は、震災被災者支援のみの合言葉ではなく、遙か昔、水平社・部落解放運動や隣保事業に関わる人々の間では日常的に実践・共有されてきたもの。字面ではなく、言葉の中にある豊かで膨らみのある意味を読み取る力が、現代に生きる私達には求められているのでしよう。

たとえば「人権」：、基本的な意味は一人ひとりの「個人の尊厳・尊重」ですが、「個人」を安易に捉えると、自己チューウや自己責任まで受容し、呼び込んでしまう。人権の概念は、本来「人へのやさしさ、思いやり」が含み持たれたものです。尊重すべき個人の中には、

2013(平成25)年度 公益社団法人福岡県人権研究所 主な年間スケジュール(案)

4月20日現在

月	総務等	調査・研究事業	県民啓発・出版等事業	関連行事等
4	会計監査 第1回部会長会議(12) 第1回運営委員会(12) 第1回執行理事会(28) 第1回理事会(28)	第1回外国人部会(14) 第1回啓発部会(13)	『リベらしおん1 (No.57)』	
5	福岡県人権研究所通常総会(19) 記念講演会(講師:阿久澤麻理子さん)(19) 公益社団法人移行記念祝賀会(19)		『全九州水平社創立90周年記念誌』発行(全九研実行委)	人権社会確立第33回全九州研究集会、全九州水平社創立90周年記念行事(30,31,宮崎市)
6		第173回定例研究会(兼第2回外国人部会・第1回ジェンダー部会)(8,春日市) 第2回啓発部会(22) 第1回教育部会(22)	『リベらしおん2 (No.58)』 『リベラシオン1』(No.150)	
7	第2回執行理事会	第2回教育部会(27)		第3回九州地区部落解放史研究大会(26,27日田市)
8		第174回定例研究会(部落史連続講座;テーマ「水平社」;福岡市)(10) 第3回外国人部会 海外人権スタディツアー(海外人権ツアー企画部会) 第3回啓発部会	『リベらしおん3 (No.59)』 ○平和を考える絵本シリーズ2 『若松軍艦防波堤物語』発行 海外人権スタディツアー	第54回福岡県人権・同和教育夏期講座(8,福岡市) 第40回九州地区人権・同和教育夏期講座(22,23,鹿児島市)
9	第3回執行理事会	第3回教育部会(28)	『リベラシオン2』(No.151 特集;林力聞き書き2)	人権資料・展示全国ネットワーク総会(26,27,滋賀県)
10	第2回部会長会議 第2回運営委員会 会計監査	筑前竹槍一揆ウォーク(企画;歴史学習プロジェクト;筑紫地区) 第4回外国人部会 第175回定例研究会(兼第2回ジェンダー部会) 第176回定例研究会(兼第1回啓発担当者の集い・第4回啓発部会) 第4回教育部会(26)	『リベらしおん4 (No.60)』 ハートフルフェスタふくおか(福岡市;パネル展)	第52回福岡県人権・同和教育研究大会(19,田川市)
11	第4回執行理事会	第5回教育部会(23)	国内人権フィールドワーク(長崎県) 史実と授業・啓発の結合をめざして「テーマ;戦争遺跡の保存」(北九州市)	第65回全国人権・同和教育研究大会(23,24,徳島市)
12		第5回外国人部会 第5回啓発部会	『リベらしおん5 (No.61)』 北九州ふれあいフェスタ(北九州市;パネル展) 『リベラシオン3』(No.152 特集「部落史講座」講演録)	福岡県人権・同和教育冬期講座(25,直方市)
1	第3回部会長会議 第3回運営委員会 第5回執行理事会	第177回定例研究会(兼第1回部落史研究部会) 第6回教育部会(11)		
2	第6回執行理事会 本年度事業総括、次年度計画(案)作成	第6回外国人部会 第178回定例研究会(兼第2回啓発担当者の集い・第6回啓発部会) 第7回教育部会(22)	『リベらしおん6 (No.62)』	第28回人権啓発研究集会(6,7,三重県) 福岡県人権・同和教育実践交流会(22)
3	第2回理事会		『リベラシオン4』(No.153九州部落解放史研究会報告)	

○スケジュールは変更することがあります。通常総会(5/19)の際に改めて提示します。
○松本・井元研究会やプロジェクト、史資料の整理、受託事業(住民意識調査、研修会企画等)関係の予定は入れていません。

無条件に他者との共存、共に在ることが含意されている。この膨らみを感じていただければ、誰であれ「人権」はもっと切実かつ生きた言葉になると思われます。

ともあれ、五〇周年を機に原点に立ち返り、「人権・福祉のまちづくり、人づくり」の歩みを更に刻んでいきたいと思えます。

(福岡市立堅粕人権のまちづくり館長)

光頭無毛文化財「田中論吉展」について

田中美帆

四月二六日(五月三一日)までの約一ヶ月間、櫛田神社前の「博多町家ふるさと館」(入館料二百円)にて、「光頭無毛文化財・田中論吉展」が開催されます。私の祖父・田中論吉は一九〇一年、博多・川端の焼き物屋の長男として生まれました。青年時代は貧しく、十六歳で父親を亡くし、満足に学校に通えませんでした。父が、独学で書画を学び、昭和三年、二七歳で福岡日日新聞(社会部絵画班)に入社してからは、水を得た魚のように次々と面白い企画を思いつき、実行していききました。彼が手がけた主な企画は、戦後の焼け跡での「新天町商店街」設立や、大宰府の「曲水の宴」、櫛田神社の節分「大おたふくの福ぐり」、博多祇園山笠の「集団山見せ」「永代奉納番外飾り



常設飾り山企画書



福岡光頭会



櫛田神社



大宰府 曲水の宴

山笠」、宮崎宮放生会の「献灯図」、光雲神社(西公園)の「謡い鶴」「黒田二五騎武者行列」、禿げた人ほど社会を明るくするのだと励まし合う「福岡光頭会」などです。また、「博多仁和加振興会」設立発起人の一人であり、禿頭であることから「光頭無毛(荒唐無稽)文化財」と自称していた論吉は、「われ人とともに喜びと笑いを分かち合おう」と、人を驚かさような奇抜なアイデアを次々に思いつき、巧みな書画で企画書を創り、得意の仁和加で人を笑わせ、生涯ユーモアを追求し続けた稀代のアイデアマンでした。その輝く光頭で戦後の社会を明るくした彼の死後も、今年で五〇回目を迎えた「曲水の宴」などが伝統文化として定着し今尚生き続けていることは、企画者冥利に尽きるだろうと思えます。今回の論吉展では、彼が残した祭の企画書や、菊竹六

鼓編集長の元で働いていた頃の直筆の日記、ファントム墜落時の風刺画、宮崎宮放生会の「献灯図」、忠臣蔵の掛け軸(興宗寺蔵)などの作品を通して、福博の大衆文化の近代史に触れていただければ幸いです。

また、今回の企画展では論吉作品のみならず、論吉の祖父にあたる田中甚平(廻船問屋・博多年行司)が、嘉永四年に旧柳町遊郭の大和屋に四三両貸した証文や、論吉の三男(父・卓史)の作った福岡工大の「にわか衛星」の試作機なども展示しております。

最後に郷土史仲間として親しかった松源寺の佐々木慈寛さんから論吉へ贈られた追悼歌をご紹介します。

筑前琵琶新曲「田中論吉翁追懐」 佐々木慈寛
見わたせば 博多にわかや筑前琵琶
荒津の櫻 千代の松 行事芸能を奨励し
朝日に映ゆる博多の津は 郷里に盡されし数々は
千歳に餘る繁華の府 広く世間に讃えらる
こゝに文化を支えし人 あゝ君逝き給い早や三歳
田中論吉翁の名ぞ思ほゆ 温容いまは見えざれど
資性温厚 博識多才 残し給える業績は
古きを温ね今を知り 筑紫の里の精華として
遠くは平安朝のみやび事 永く郷土に輝やかん
曲水の宴を復興し 永く郷土に仰がれん
近くは都心新天町を 博多の花道として開き

(福岡県人権研究所事務局員)

お知らせ

○二〇一三年度通常総会・記念講演会・

「公益社団法人」移行記念祝賀会

▽日時 二〇一三年 五月一九日(日) 一三時三〇分

▽会場 ホテルレガロ福岡

(住所) 博多区千代一―二〇―三

(交通) 地下鉄「千代県庁口」四番出口徒歩三分

▽内容 通常総会 一三時三〇分

記念講演会 一五時(予定)

演題 「各地の人権意識調査の結果から見えること」

↳ 部落問題を中心に

講師 阿久澤麻理子さん(大阪市立大学創造都市研究科教員)

「公益社団法人」移行記念祝賀会(記念講演会終了後)

○第一七三回定例研究会

(外国人部会・ジェンダー部会合同)

▽日時 二〇一三年 六月八日(土) 一三時三〇分―一七時

▽会場 福岡県人権啓発情報センター研究室

(住所) 春日市原町三丁目一―七 クローバプラザ七階

(交通) JR春日駅下車徒歩一分

▽内容 第一部 外国人部会 一三時三〇分

演題 「法改正後の外国人実習生問題」

講師 中島真一郎さん(コムスタカ外国人と共に生きる会代表)

第二部 ジェンダー部会 一五時三〇分

演題 「日本における男女共同参画社会の現状と課題」

講師 山田澄子さん(福岡県人権研究所理事)

▽資料代 五〇〇円(第一部、第二部合わせて)

研/究/所/日/誌/か/ら (2013.3.12~4.20)

- 3/14(木) 全九州水平社 90 周年誌作成委員会
- 3/16(土) 全九州水平社 90 周年誌作成委員会
- 3/18(月) 事務局会
- 3/21(木) 『リベラシオン』No. 149 発行
- 3/22(金) 林力さん聞き取りプロジェクト
- 3/24(日) 堅粕人権のまちづくり館 50 周年式典
- 3/25(月) 事務局会
- 3/28(木) 全九州水平社 90 周年誌作成委員会
- 4/01(月) 事務局会 ブックレット 11『人権とは何か』(増補改訂版)発行
- 4/03(水) 事務局員辞令交付式
- 4/07(日) 編集会議 『リベラシオン』執筆者・読者交流会 全九州水平社 90 周年誌作成委員会
- 4/08(月) 事務局会
- 4/11(木) 会計監査
- 4/12(金) 部会長会・運営委員会合同会
- 4/13(土) 啓発部会
- 4/14(日) 外国人部会
- 4/15(月) 事務局会
- 4/19(金) 全九州水平社 90 周年誌作成委員会

(※住民意識調査等の受託事業、公益社団法人申請に関する調整・事務、研究・研修や教育・啓発に関する相談等の業務については省略しています)